

梅鶯仏教壮年

第55号
2008年
2月17日

梅鶯仏壮定期総会

3月1日(土)

午後6時より

役員会

3月1日(土)

午後4時より

総会は、お勤め・法話に引き続き開催致します。
賛助会員お方も、どうぞお勤め・法話にはご参拝下さいますようご案内申し上げます。

~~~~~

誉めてくれる人。  
称えてくれる人。  
その人は味方。

叱ってくれる人。  
諫めてくれる人。  
この人も、味方。

◇ 後者の方が、よりよい味方  
| 確かな味方！

寺川幽響先生

## 生涯聞法道

賛助会員 森やす子

映画の一場面で、何宗かの教えで、「死後三十三年経って成仏する」と言っているお坊さんのセリフを聞いて、臨終とともに仏さまに成るとお聞かせ頂いている真宗のありがたさを、痛感する日々です。

祖父、次男、母と家族を送り、それぞれに生前は個性と個性のぶつかりあいや反発もあり、理想の家庭とはほど遠い生活でした。死別した後に、悔やむことや詫びたいことも多く、さみしさと相まって、涙と共に七日毎の法事、中陰明け、百ヶ日、一周忌、三回忌と、平成十四年次男の死から昨年まで六年続けて法事に会い、今春は早、次男の七回忌を迎えさせて頂きます。

時間と共に、良い思い出だけが残り、お浄土から仏さまとなつて見守っていて下さると思うと、ほっこり温かい空気が感じられ、お仏壇のお荘厳や読経にも精が出ます。

母が夜昼、口癖のように唱えていたお念仏を不思議に思い、「また何で今、念仏や」と反発さえ感じたこともある私ですが、いつの間にか同じ道をたどっている自分

に、お浄土からの導きを思うことです。

昨夏、次男と同じ頃に息子さんを亡くされた方と一泊の研修旅行で同道した折、「ようやく旅行にでも出ようかという気になれたんですよ。数年間つらくて仕事も出来ず、うつ病になったり・・・」と話しておられるのを耳にして、大してめげることなくここまでこれた私は、仏様に育てられてきたお陰かなと思つたことです。

仏法聴聞をはじめた頃、山月先生が、「仏法聞いたとて何の役にも立たんという人がいるけれど、『心を弘誓の仏地に樹(た)て・・・』と、仏道を習うことはどんな仕事にも勝る。生涯道を歩むこととです」と仰つたとき、意味はよく分からないうちに、その時に最高の道を歩ましてもらおうと感じたことを、二十年経つた今も、はつきりと思い出します。

苦しいことも乗り越えられる元氣や力を与えて下さる、仏教の深さ温かさを心の糧に、報恩感謝の日々を送らせて頂きたいものと思つております。

合掌



